



愛と健康の

# かけはし

No.40



編集・発行 情報委員会

神戸朝日病院

住所：神戸市長田区房王寺町3丁目5-25

電話：(078) 612-5151

URL: <http://www.kobe-asahi-hp.com>

## 診療科目

- 内科
- 消化器内科
- 肝臓内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科
- 整形外科
- 消化器外科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 肛門外科

## 専門外来

- 腎臓内科・泌尿器科
- 糖尿病内科
- 皮膚科
- 在宅医療
- 人間ドック
- 健康診断
- 医療相談

## 診療時間

【午前診・月～土】  
 受付 8:10～12:00  
 診察 9:00～

【午後診・火 内科のみ】  
 受付 14:00～16:30  
 診察 15:00～

【夜間診・月、水、木、金】  
 受付 17:00～18:30  
 診察 17:30～

※ただし急病患者については時間制限なく診療いたします。

- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本内科学会認定教育関連病院
- 臨床研修病院指定
- 日本医療薬学会研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設

## 「胃瘻造設をめぐる」

副院長 消化器内科 安藤 健治



●2004年4月発行のかけはし15号で、「誤嚥性肺炎と胃瘻造設」という題で文章を書き、「胃瘻」の紹介をしました。その当時の私の考えは「胃瘻」は非常に便利でかつ有用なものであるという認識でした。

●それから約7年が経過して実際に胃瘻造設をめぐる患者様やご家族とのかかわり、胃瘻造設された方の最期を診て行くうちに大きく考え方が変わってきました。

●まず、胃瘻造設を行なうにあたって患者様ご本人の理解が得られていないことがほとんどでした。(2009年当院では新規に胃瘻造設を行なった方は27名いましたが、認知症や意識障害などで、ご本人から造設の同意書にサインを頂けたのは2名?、4%だけ、のこりは、ご家族の同意でした。)造設の理由が十分に食事ができないという施設でみてもらえない、「行くところが無いから」という内容で、私達も口から食べることもできないと、退院して家に戻ったり、他の施設に移っていたりすることができない

●安易に胃瘻を勧めました。

●中には、胃瘻を造設しても嘔吐を繰り返す、胃瘻の穴から十二指腸へチューブの先端を留置するという経胃瘻的腸瘻カテーテルというものに入れ替えてもうまくいかない方もおられました。今後、食べられなくなりそうだからと胃瘻造設をすすめた糖尿病の患者様が、結局、胃瘻の穴が広がり、感染を起こして、結果として死期を早めてしまったのではと思うこともありま

●長期間在宅で介護されていた方は、注入食を多く入れると嘔吐が起るため、少量で経管栄養を続けていきましたが、褥瘡がどんどんひどくなり感染を起し、骨も溶けるように骨折し、胃瘻の穴は大きくなり、結局、注入食を続けることができなくなりまして、お気の毒でしたが非常に痛々しい最期でした。

●口から食べられなくなると自然の流れで亡くなっていく患者様に比べ、栄養が入ること

を永らえる事ができても、予期しなかった様な最期や痛しい最期を迎えることが多い気がします。

●本人の同意も得られていないのに、このような状態になるかもしれない胃瘻を積極的に勧めていいものだろうか?と疑問を持つようになりました。紹介させていた例は、特に悪い経過をたどった例ですが、もちろん再び元気になるまで胃瘻を抜くことができた方も数人経験しています。どのような場合に胃瘻造設を行なうのかいろいろの方の意見を聞いて考えることが必要です。

●1999年から当院で診療をさせていただいていますが、一緒に仕事をしてきた看護師、薬剤師、栄養士、ケースワーカーたち、実際に受け持った患者様とのかかわりで、私自身の取り組もうとする医療も変わりました。当初は癌患者様の苦痛を和らげ、安らかな最期を迎えていただくため、「緩和医療」にやりがいを感じ、緩和ケアチームでカンファレンスも行ってきました。

【2ページに続く】